

2023年度(令和5年度)用

自己点検・自己評価報告書

学校関係者評価委員会

2024年6月6日(木) 会議資料

学校法人 水野学園

専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪

自己点検・自己評価委員会

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等	
【現状】	1	<p>学校の理念・目的・育成人材像は定められているか</p> <p>教育理念は、学生ハンドブックに掲載し、年初のオリエンテーションで学生周知が進められている。学園として統一した3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）を、HPにて公表している。</p>
	2	<p>学校の将来構想を抱いているか</p> <p>定期的実施される「経営会議」において、将来構想および検討が行われている。学校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われている。</p>
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 多校展開に伴い、それぞれ学校間の分野の違いが大きくなってきたため、水野学園で統一していた3つのポリシーを各校で独自に立案した。現在HPに公式に掲載されている。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 上記の通り、各校の独立性を促すため2025年に各校学校長を中心に学校白書会を実施する予定である。また卒業生の声をフィードバックするため、年度内に卒業生アンケートを準備している。</p>	

項目 2	学校運営		
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。
	4	中長期的な事業計画を定めているか	学校の事業計画は学校長を中心に定めている。変動する学生数、学費収入、教室使用状況、支出などを鑑み、人事計画・人件費計画は、10年後までを見据えた事業計画を定めている。
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長による「経営会議」を定期的に行い、学園運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。各校間の距離問題、また教職員の公休日を潰さないという利点から、職員会議はメールや動画配信などで情報の共有を行った。
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	整備されている。人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、退職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。教育局长直轄で情報処理室長が任命され、全学規模でシステム化に取り組んでいる。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 23年度も項目7の「情報システム化による業務効率化」に注力した。出席率、取得単位状況、学校スケジュール、教育内容などが保護者も確認できる在校生サイトの充実などに努めた。また各校ごとの運営状況が比較され、より健全な学校運営が求められるようになった。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 各校ごとに問題点及びその改善点が異なるため、学校長の強いリーダーシップと組織マネジメントが要求される。</p>		

項目 3	教育活動		
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2023年度も見直しを行った。 各科目について「授業のねらい」「到達目標」「授業の計画展開」「評価方法」などで構成される授業シラバスを作成し、公開している。
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	昨年度立案された「社会実感プログラム」の検証がなされ、その意義と成果が管理職者間で共有された。
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	外部アドバイザーとの協力により学生育成目標に向けた相談がなされている。
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育局長、学科長が教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、科目履修状況、出席率、授業態度、成績を総合的に判断し、学校長以下教職員の判定会議にて認定されている。
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制は整っている。「貴金属装身具技能検定」の取得に向けて、対策ゼミを放課後に実施。希望者25名(3級12名、2級13名)の指導に当たった。 また、自転車メカニックコースにおいては、「自転車安全整備士」資格に対して通常授業で指導体制が整っている。また「スポーツバイクメカニック検定」は学内カリキュラムと連動化している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 常勤講師のキャリアは高く、ベテラン揃いで授業計画やその運営に関しては問題はない。また学校間を超えて共有するゼミや特別授業も充実してきた。</p> <p><課題・今後の改善方策等> ベテランが揃う反面、平均年齢が上がり教育のフレッシュさや、新しい教育のあり方を構想する創造性が求められる。若干名ではあるが、新学校の設立や退職者の代替として若手教員の採用が実現した。</p>		

項目 4	学修成果		
【現状】	14	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2024年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は97.6%(昨100%)だった。例年と大きく変わらない結果を残すことができた。
	15	資格取得率の向上が図られているか	ジュエリーコースの「貴金属装身具製作技能検定」の受験結果は、3級合格率92.3%(昨80.8%)、2級合格率38.5%(昨87.5%)だった。大阪府の合格率はそれぞれ86.7%、37.5%だった。ウォッチコースの「時計修理技能士検定」については、3級合格率83.3%(昨100%)、2級合格率100%(昨50%)だった。大阪府の合格率はそれぞれ83.3%、45.9%だった。自転車メカニックコースでは、「スポーツバイクメカニック検定(SBM)」のカリキュラム連動化を実現している。2023年度は15名受験、6名が合格しており、合格率は40%(昨18.2%)(検定全体の合格率は20.9%)
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、教務進路職員との関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立っている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 6月に行ったHELLO(リクルートイベント)では多くの企業が参加し、例年より高い内定率を出す事ができた。また、全コース学生が募集対象の企業説明会も行い、学生の選択肢を広げる事が出来た。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 売り手市場が続くため、より学生が希望の就職先に就けるよう今までの就職活動ルールの見直しを検討する必要がある。</p>		

項目 5	学生支援		
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	整備されている。 教員・学務(進路担当者)が連動することで、より良い学生指導を行っている。進路指導についてはキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析などを指導した。企業就職希望者に対しては、1月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人公開を行った。また、オンラインを中心としたリクルートイベントを行い、多くの内定者を出すことができた。
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール(附帯教育、昼夜、時間登録制)への転校を勧めている。 一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。 ウォッチ・自転車メカニックの各コースには再受講コースが存在しない。 専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている。
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	整備されている。 従来通りクラス担任と学科担当学務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	高等教育修学支援新制度(学費無償化)、日本学生支援機構の公的奨学金、家計の急変・転科による就学年数延長者に対しての 水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学費相談担当者が学生個々の状況に応じて対応している。
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5月に学内において全学生の健康診断を実施している。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。学内においての学生の急な傷病に対しては、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。また、既往歴に関しては学生に個別でアンケートを取り、対応できるよう関係者で情報共有をしている。
	22	保護者と適切に連携しているか	在校生、保護者が閲覧できる「在校生サイト」にて、出席率、単位取得状況、学校スケジュール、教育内容を確認できる。また、保護者にメールアドレスを登録してもらい、定期的にメールを配信している。
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。 また、優秀な卒業生に対しては、「同窓会賞」として、独立開業や再進学のための報奨制度も制定されている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<自己点検> 上記の通り、学生支援体制は概ね整備されていると評価している。 <課題・今後の改善方策等> 2022年度より導入した「こころの相談室」は臨床心理士資格を有する先生によって運営されているが、在校生が気軽に相談できる手段として大いに機能している。		

項目 6	教育環境		
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしている。各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。学生への伝達事項は、引き続き学生アプリやGoogleClassroomを活用することで、スムーズに行えている。また、23年度はデジタル教育の充実を図り、専用のスタジオを設けて運営体制を整えている。
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	本年度はオンライン、対面のハイブリッドな環境を提供できた。 [2023年度実績] ジュエリー＝株式会社沙羅双樹(インターンシップ、神保真珠商店(連携課題)) ウォッチ＝ブライトリング・ジャパン株式会社様(セミナー)、セイコータイムラボ株式会社様(カスタマーサービス見学)、株式会社エムヴィ様(会社見学) 自転車＝サカイサイクル株式会社様(商品企画講座)、株式会社和光ケミカル様(洗車セミナー)
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。 また、有事の際の教職員安否確認は専用アプリで行う。これにより各校への連絡もスムーズに行うことができる。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 昨年から引き続き、東京校との共同授業や教育者によるオンライン授業、アーティストによる対面授業、また異なるコース間での合同授業・インターンシップなどが可能となっている。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 新しい学びの場が増えたことを前向きに考え、学生により良い教育体制を提供していく為にも、教育に協力的な企業を探し、連携して行く事が必要と考える。</p>		

項目 7	学生の募集と受け入れ		
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	総合型選抜入試については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断している。
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	2024年4月入学者の募集状況。ジュエリーコース昨年並、ウォッチメーカーコース昨対140%、自転車メカニックコース昨年並。 留学生はコロナ前の8割程度まで戻りました。高校生募集は前年から実施していた早期募集、特待生制度の導入などにより昨年同数をキープ。今後も高校生募集の競争は激化していくため、競合校との差別化、カリキュラムの魅力をどのようにPRしていくかが課題。		

項目 8	財務		
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	高等教育修学支援新制度や学園独自の奨学金制度等により、入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことで安定的な収入を確保し、健全な財務状況を維持している。将来5年程度の見込みについて随時分析している。
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導を受けながら適正な会計処理を行っている。 2023年度も5月に、監事2名による会計監査を行った。
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		

項目 9	法令等の遵守		
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあたっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をホームページ上で公開している。
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか「学校情報」を各年度ごとに更新し、ホームページ上で公開している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 例年通り、適正に実施されていると評価する。 学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。 自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、学校情報は、毎年ホームページにて公開することとしている。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 通常国会に提出されていた「私立学校法の一部を改正する法律案」が2023年5月8日に公布された。(施行日:2025年4月1日)。主に学校法人組織の見直しに関する改正で、法人本部にて文部科学省および東京都の指導の下、対応準備を行っている。</p>		

項目 10	社会貢献	
【現状】	38	<p>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</p> <p>卒業制作展と同時に「卒祭」(学園祭)を行い、外部を含め3日間で約412名の来場者があった。 ≪技術講習会・社員教育を実施した関連団体・企業様一覧≫ 日本時計輸入協会様／日新時計ホールディングス様</p>
	39	<p>学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p> <p>業界人教育、地域産業興進、資格試験問題集作成、アップサイクルイベント協力など、様々な企画で社会貢献に努めた。</p>
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> コースの垣根を越えて実践している放課後プロジェクトにおいて、オリジナル商品の開発を通して、ものづくりの立場から社会貢献の意義を教育する機会を与えることが出来ており、コース関係なくその理解が深められた事は評価できる。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 2024年度は2023年度に引き続き、全コースに「社会実感プログラム」というテーマで通常授業の一部を位置付け、直接的間接的に社会貢献を行なっていく予定である。</p>	

項目 11	国際交流	
【現状】	40	<p>留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか</p> <p>学務課内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。適切な管理は継続されており、2023年度も大阪出入国在留管理局より「適正校」の認定を受けている。</p>
	41	<p>グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか</p> <p>今年度もオンライン中心の国際交流を行った。一方、交換留学生の受け入れを再開している。本校から海外への送り出しは3名となった。また、ウォッチコースでも外国人講師の参画やレクチャーを実施した。</p> <p>2023年度の実績は以下の通り。 [ロシア]オレグ・ミトロファノフ氏 ワークショップ [スイス]ファビアン・ペレ氏 セミナー [スイス]アントワーヌ・プレジウソ氏 セミナー [イタリア]ダイアン・ベッカー氏 作品講評会 [イスラエル]イタイ・イノ氏 セミナー</p>
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> コロナ禍収束後、交換留学などを再開することができた。また、日本在住美術教育者の招聘などを進めグローバルな教育環境を保持した。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 語学教育(英語・フランス語)にも力を入れ、多くの学生に対し国際感覚を啓蒙することができた。円安の中、実施が困難な状況ではあるが海外研修旅行なども準備する予定である。</p>	